



～着任のごあいさつ～

若草第一病院 脊椎脊髄神経外科

診療部長 森脇 崇



皆様に支えていただき2019年10月1日に脊椎脊髄神経外科を開設いたしました。ここ数年で脊椎脊髄疾患の治療環境は大きく変化いたしました。高齢化により、運動器疾患が増加するとともに、膝、股関節の変性や骨粗鬆症性椎体骨折後の後弯変形により、立位バランスが悪化し、慢性腰痛、歩行障害、胃食道逆流症（GERD）等に悩まれる患者さま（成人脊柱変形）も増えておられます。

成人脊柱変形治療では、脊椎前側方からの低侵襲固定術（OLIF, LIF）と脊椎後方からの低侵襲固定術（PPS；経皮的椎弓根固定術）を組み合わせた胸腰椎低侵襲固定術を積極的に導入し、良好な立位バランスを獲得し、歩行が維持できることを目標としております。脊椎前側方低侵襲固定術（OLIF, LIF）については、学会（JPSTSS 脊椎手術手技学会）を通じての実習セミナーや、国内外での研修を積み重ねて現在までに40例以上（執刀30以上、若草第一病院では11月に実施済）の経験を有しております。また、頸椎疾患についても、前方および後方からの手術実績は十分に重ねており、2020年度から本格導入される頸椎人工椎間板（執刀条件；頸椎前方固定術執刀経験40症例以上、講習等）についても使用資格を有しております。ほか、骨粗鬆症性椎体骨折（圧迫骨折）では、疼痛緩和目的の経皮的椎体形成術（BKP）も実施しております。早期の離床に有効的です。

頸椎から腰仙椎までの変性疾患、脊柱変形疾患（Total neurospine；全脊椎、全方向からの治療を理念としております）に対しては、問診、診察、保存的加療が基本であり、その後に、手術加療も選択肢となります。そして、脊椎脊髄は、運動器の中に中枢神経が存在することから、手術後は、密に連携をとった、リハビリテーション加療が必須であります。社会医療法人若弘会は若草第一病院とわかかさ竜間リハビリテーション病院と相互に連携しておりますので、手術を受けられた患者様へ、シームレスにリハビリテーション加療に集中していただき、在宅へ復帰していただける環境を提供できます。安心して、脊椎脊髄疾患の治療を受けていただくと自負しております。

言うまでもなく、中長期の視点で脊椎脊髄疾患患者様と向き合うには地域医療連携（かかりつけ医の先生方とともに良い方向性を検討する）が要でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

略歴；脳神経外科専門医を取得後の2010年から、元大阪大学准教授 岩月 幸一先生の指導の下で、脊椎脊髄疾患の治療、脊髄損傷に対する先進治療の研究および、再生医療関連の実務（および関連法規・行政の研究）を行い、2018年2月から河内総合病院脳外科副部長を経て、若草第一病院脊椎脊髄神経外科診療部長を務めております。

（詳しくはホームページをご参照ください）